



ボランティアニュース

222号 2022年5・6月号

発行 神奈川県立こども医療センター オレンジクラブ事務局

編集責任者 ボランティアコーディネーター 加藤 悦興

〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4 Tel. 045-711-2351 (代表)

ホームページ <https://orangeclub.kcmcvolunteer.com>

ブログ <https://blog.kcmcvolunteer.com>

～コロナ禍での挑戦と新たな出会い～

重症心身障害児施設ひだまり 生活支援課 佐藤 渚

オレンジクラブのボランティアの皆さま、その他活動していただいているボランティアの皆さま、日頃より重心施設(ひだまり)の生活や活動を支えて下さり、ありがとうございます。

コロナ禍での生活が始まってから2年半が経過しようとしています。ひだまりでも多くの生活や療養上の制限が増え、こどもたちと一緒に新たな生活様式を考えていく機会となりました。

こどもたちが生活の中で楽しみにしていること、それは充実した余暇活動だと考えています。もちろん、安全安心に日々過ごすことが出来ることが最優先であることは大前提ではありますが、こどもたちの成長発達に応じた「やってみたい!」「見てみたい!」「聞いてみたい!」「これは何かな?」「楽しそう!」「びっくり!!」「ちょっと慎重に…」など、様々な経験の機会を維持していくこと、その力を育むこと、それを私たちがお手伝いしていくことがとても大切だと思っています。

ひだまりの中での余暇活動は、毎日の日中療育活動の他、月の行事としてみんなで集まる季節の行事、バスハイクで外出、誕生会などがあります。コロナ禍でその行事のほとんどを、これまでのやり方などを時間をかけて生活支援課の保育士や児童指導員が試行錯誤しながら見直し、感染対策をしながらできるもの、できることへ順応させてきました。そのような中、今からちょうど1年前、スマイリングホスピタルジャパンの松本さんから「リモートイベントを開催してみませんか?」とお声掛けいただいたことをきっかけに一念発起、令和3年6月に初めて施設全体でのリモートイベントを行ってみることとなりました。おおよそ1年以上ぶりにアーティストの方々と再会できるとわかった時はとっても嬉しく、すぐにこどもたちに報告、ワクワクする気持ちでい



っぱいになりました。

始める前は、慣れない電子機器を使ったデジタルな行事の開催にうまく開催出来るかと不安になっていたところもありましたが、職員の皆は「制限のある生活の中、家族にも満足に会えない、外出や人と会うことを大きく制限されたこどもたちがどうしたら楽しめるか」を第一に考え、新たなイベントを準備・開催してきました。始めていくにつれ、少しでもイベント環境を良くしてこうと、マイクスピーカーや大型スクリーンを用意したり(Amazon ウィッシュリストで寄付していただきました)と、必要物品も徐々に整えることが出来てきています。この1年の間に様々な団体の方や寄付などのご協力を経て、計12回のイベントを開催することが出来ました。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。内容や環境も改良しながら、年明けのイベントでは、こどもたちも職員も6月からの集大成ともいえる楽しさや嬉しさを味わい表現する、達成感を得ることが出来たと思います。毎回のイベントを行う毎に感じる、こどもたちと一緒に職員も思いっきり楽しむことができることがひだまりの大きな魅力かなと感じています。

またリモートイベントでは、主にzoomを利用し双方向でのやり取りを楽しむことを大切にしています。画面越しのこどもたちの表情や様子がうまく伝わらないのではないかと、ということを心配していましたが、協力して下さるボランティアの皆さまが念入りに準備を行ってくださり、かつ丁寧にやり取りする時間を設けて下さったおかげで、こどもたちの感じ取る力が特に育まれたのではないかと思います。

様々な制限があった中で始まったリモートイベントですが、良かったことがあります。それは、全国のアーティストの方とつながることが出来たことです。沖縄や広島の対面ではおそらくお会いすることが出来なかったであろうご縁をいただけたことは、こどもたちがより広い地域や社会とつながることができる体験になりました。ご協力いただいたすべての方々にこどもたち、職員一同を代表して感謝申し上げます。そしてこれからもどうぞよろしくお願いします。

さて、今年度はひだまりのみんなでどんなことが出来て、どんな出会いがあるだろうかといまからワクワクです。今後も、ひだまりのこどもたちが楽しめるイベントの開催に向けてご協力いただけたら嬉しいです。



こころの診療病棟の庭が変わりました！（その2）

前回号で、ボランティアさんたちがこころの診療病棟の庭を整地し伐採をして下さり、明るくなった話をしました。今回はその続きで、庭を取り囲む壁の話です。

壁はコンクリートで出来ており、長年の汚れを齊藤さん本間さんお二人のボランティアさんが高圧洗浄し、ペンキを塗らなくてもいいくらいとてもきれいになりました。しかし、看護科長から、「入院している子どもたちと『壁は空色がいいね』と話していたのでペンキを塗っていただきたい」とのこと。ペンキは職員の方のボランティア活動でお願いしようと考え、早速呼びかけました。当日は、天気も良く、ペンキのはみ出し予防の為の養生テープをボランティアさんたちに貼っていただき、夕方いよいよペンキ塗りを行いました。入院しているお子さんたちは、知っている職員がペンキを塗っている様子を窓越しにながめ興味津々の様子でした。



壁は、綺麗に仕上がりました。いつか入院しているお子さんたちが壁に絵を描いたらいいですね。楽しみにしています。

(ボランティアコーディネーター 加藤)

ぽぽんた通信㊸

きくちゃん

ぽぽんたの本の貸し出し活動が4月から再開した。活動ノートを見ると昨年12月24日が貸し出し最後になっていた。その間、病棟や施設からの要望があり、本の貸し出し作業は図書室司書さんや加藤コーディネーター・保育士さん達が続けて下さったようだ。ありがとうございました。

さて、13日の活動に参加できた人は6人。本の貸し出し先は7箇所だ。

4月のZOOMミーティングで貸し出し作業について話し合いがあり、重い本の作業は必ず二人で行う事が決定している。二人組になり、それぞれの病棟に合った選書と消毒をしてクリアーケースの置き換えをした。二重マスクとアイシールドがいまままでに無い装備だ。

ZOOMおはなし会はかなり定着してきている。毎週水曜日に三つの病棟でのおはなし会を組んでいるが、主催者グループの負担はかなり大きい。でもキクちゃんに出来る事は、楽しいおはなし会を届ける事だけだ。さて クリアーケースを押して病院内に行く時、大勢の新入看護師さんにであったり、会議室やカンファレンスルームで研修会がおこなわれていたりした。あ〜〜4月だな〜

今年のGWは久しぶりの友人と作品にあえた。それは、コロナのせいで実施出来なかった発表会や展示会が開催されて、待ち合わせした訳では無いけれど、会場で会えた、と言う訳だ。

5月初旬、ブラフ18番館で久しぶりに絵本展が開催された。

夫と共に、石川町から坂道を上って行くのも嬉しい。坂道にはピンクの野ばらがいっぱい咲いていて可愛らしい。初日は午後からの開場との事でまだ時間がある。外交官の家で昼食を取った。外交官の家の庭は、色とりどりの大小さまざまなバラの花が満開だ。

定時になり絵本展の会場に入ると、大勢の人がいた。私のお目当てはぽぽんた0さんの作品だ。今年の作品はぽぽんたMさんのお孫さんの詩を絵本化したような。勿論、MさんもHさんも来ていてすてきな作品に皆で満足した。

この作品展はどの作品も手に取ってページをめくって読むことが出来る。それが嬉しい。イスに座ってゆっくりと読ませてもらった。それぞれの作品は作者の思いが伝わってくる。

4月5月の活動から

*茅ヶ崎のおもちゃの病院が、19個の修理されたおもちゃを持ってきてくださいました。

HCU2や理学療法など9セクションに届けました。

*5月2日フラワーアレンジメントの皆さんがクリーン面会通路にカーネーションを飾りました。

*5月は14回17セクションでオンラインイベントを行いました。

*5月から総合待合でピアノコンサートを再開しています♪毎週火曜日

*5月9日ボランティア調整会議を開催しました。

*5月28日土曜日七夕飾りつけを行いました。

*コロナ禍の中、感染防止対策できょうだいさんの来院はできませんが、医療者からの紹介のご家族に限り、きょうだい預かりを再開しました。きょうだいさんのお預かりについてのご相談は主治医や看護師にお声をかけて下さい。(ボランティアコーディネーター)



《6月の大きな予定》

6月7日(火) 14時~15時 ボランティア運営会議 講堂・オンラインと対面

6月28日(火) 14時~15時30分 ボランティア研修会 講堂・オンラインと対面